

授業レポート 『主体的・対話的で深い学び』の授業実践を振り返って

〇〇高等学校 理科（化学） 〇〇 〇〇

1. 授業を終えて

高等学校における理科の見方・考え方は「自然の事物・現象を、質的・量的な関係や時間的・空間的な関係などの科学的な視点で捉え、科学的に探究する方法を用いて考えること」と学習指導要領に掲載されている。そこで今回は1年生、化学基礎の酸・塩基の分野において同濃度の酸と塩基の未知試料を決定させることで酸・塩基の性質および中和における量的関係について身につくのではないかと考えた。

始めに公開授業の前の授業において実験計画を生徒自身にフローチャート書かせることで見通しを立てさせた。これにより、実験中の教師の発言の場が減り、1つ1つの動作を生徒自身が対話的・協同的に問題解決を行うことができていたように感じた。大学入学共通テストを意識し、フローチャートを取り入れ、知識の部分はあらかじめプロジェクターを用いて掲示した。知識を掲示したまま授業を行うのは初めての取り組みで、それが答えになり考えなくなるのではないかと不安もあったが、班で話し合いながら掲示している情報を用いて考えることができていた。教師が生徒の力を信じて少しレベルの高いことを考えることも大切だと感じた。また、どの力をつけさせたいか、最終イメージから授業計画を立てる大切さがよく分かった。

2. 公開授業で出た意見

- ・日頃から自分の意見を言える、わからないと言える環境作りができおり、これが対話的に繋がっている。
- ・実験計画の見直しを生徒たちで行っていた。実験結果からさらに教科書で調べていた。
- ・定量性の評価の仕方は妥当なのか話し合っていた。
- ・実験計画を自ら立てることで深い学びへ繋がっている。

授業を見ていただき、意見を聞くことで私自身が気付かない生徒の動きを知ることができた。「実験させただけにならないか」授業計画を立てる上でいつも心配になるが、片付けの際にも自分たちの実験について話し合っている姿を教えていただき、少しは深い学びができたのではないと思う。しかし、自分が担任しているクラスでの実施だったため、これからはどのクラスでもどの学校でも、その状況に合った授業展開を考えていかなければならない。同じことの繰り返しにならないよう、日々工夫した授業をしていきたい。